足利學校祕籍叢刊第二

毛詩註疏

第一卷

足利學校遺蹟圖書館後援會刊

664005

PL 2466 26M3 1973 V. J



南宋刊十行本毛詩註疏解說

長澤規矩也

る故で 各書が て周禮 行された、 路茶鹽司 經注疏薈本が出版された。 北宋末年まで、 、ある。 略同じなので、 尚書・ によつて出版 , は 禮記・毛詩が刊行され、 ゆる單疏本とが、 注疏は別々に傳はつた。 世にこの一連の注疏本を越刊八行本と稱される。 されたが、 その最初のものが、 別々に流傳してゐた。 左傳の刊行者は吳興の沈中賓であると傳へられる。 後れて左傳・論語・孟子の出版を見た。 卽ち、 足利に傳はり、本會が曩に影印した周易注疏で、 經文に注を插入した、 かやうな傳本を學徒が不便としてゐたの (V 八行とは、 はゆる經注本と、 最初の 每半葉八行 L 頃 ゕ は、 疏ば 兩浙 から成 かり單 體 續 裁 は 東 V3

南宋中 業であるか に近いとし、 -葉には、 Ď, こゝにい 射利には敏であり、 已に建寧府建安縣地方(今、 はゆる宋刊十行本の編刊を見たのである。 注疏薈本の流行を見て、 福建省に屬する) 之に陸徳明の經典釋文を插入すれば完璧 には書肆 が櫛比してゐた。 もと營利事

雍 ところ (國子 が、 世に に は、 流傳する十行本 宋元刊 本の 板木 は殆どすべ -が傳 は て つてゐた が 明 0 ため、 É 德中、 十三 南京 |經注疏挍勘記を 、國子監印行の正徳十行本で、 編刊 した阮元 を始 當時南 は め

諸家 撫本禮記鄭注考異序」 は 之を宋刊 明修 1本と信じて疑 (思適 **齋**集卷七 気はず、 0 附 獨 ŋ, 記 に 南雍 顧干 本 里 は 0 もと宋季建 2 が、 之を疑 附 **べつてる** 音 一本に出 たやうであ たも 0 と言 彼 之を

わ L3 .と斷 かぎ ~山井鼎 宋末 は 原本を見てゐたので、 0 は必ずしも適 翻刻本の遞修に係るものと言つた 確ではない 正徳本と略似てゐるとか(左傳の條)、 決して、 (楹書隅錄卷一「宋本附釋音春秋 九經 三傳沿革例 12 į, 稍同 3 所 同じとか 0 附 釋 左傳 퍔 (毛 0 詩 註 建 本では 疏」。 の條)

去 L 0 か 痕 跡 子 を發見し、 は 往年、 論語 靜嘉堂文庫 に は「泰定四 所 藏 の [年] (卷一 正徳本十三經の版 第 葉)、「泰定丁卯」(卷三第 心を詳ら 査 L 原刻 葉と覺しき紙 葉)、 0) 葉の 版 が 心 に

0

た

La.

3

表現

えを使

つた(七經孟子考文)

が、

正徳本が元刊本とか、

宋末刊本とかい

ふ斷案

は下してゐな

か

ع

削

たとし、

その

訤

承

分けて、

海源

閣主人の

楊紹

和

は、

千里が

尧

明

間

に宋の

建

附

音本を翻

刻

L

た

ŧ

Ō

を遞

修

L

たも

0

な

が、

かぎ る 沙く る Ō 、なく、 を見、 宋刊 更に、 一本と數人一致するとい 各葉の 刻 Ï が、 胡 注通 ふやうな實例は全くないことを知 鑑と一 致するも のが多く、 その 他、 n, 元刊 正德本十三 本 ٤ 文字 經 致 は宋 するも 殘 刊 つて 本

0 補修でなく、 元刊本の補修であると斷定した。 今から四十年も前のことである。 恐らく、 正徳本は

泰定刊本の補修で、 眞の十行本の宋刊本の傳存は至つて稀であるとい 正徳以前にも補修せられたとい この毛詩に至つては、 全く天壤間 0 ?孤本で、 ふことになる。 足利學校傳來本としては、 尚書の初印本は臺灣 南 0

S

ヘ跡が窺

べる。

底本 宋初年覆北宋刊本新唐書・ 故宮博物院に傳存するが、 周 易注 は 初印 |疏についで影印を行つた理 横四寸一分。 に近く、 首「毛詩正義序」、次「詩譜序」、正義の序末に、 每半葉十行、 南宋初年刊本周易注疏・明州刊本文選の三書と匹敵するもの、是、 每行大十八字、小二十三字、 一由である。 米澤市立圖書館所藏鈔本はこの本に基くもの 左右雙邊、 一經堂劉叔剛 耳が ?あり、 住柱 匡 軒 郭 か。 0 內 木記 本會が 縱六寸 が

「足利學校公用」又は「足利學校之公用也」の墨書が各册首などにあり、

詩譜序末に古い識語がある。

その中の

「大荒落」

とは

「巳」歳

「松竹淸人」

0

印

が

捺

あ

異名である。 てゐるのは、 八行本 經注と別行してゐた單疏本の名殘で、 -・十行本は固より、 後の注疏本の疏の文の前に、「何々至何々」とかいふ文字が標記され 經注と合刻されてゐる上は、 この標記はさう必要

され、

寄進者上杉憲實の墨書の外、

旣刊 に比して寧ろ劣る。 Ó 周 易正 義 は コ これは手摺の特殊技術の傳が殆ど全く失はれたからである。 口 タイプ印刷の方法を採つた。しかし、今日では、 コロタイ -プ印刷 洋紙 に印刷する場合 の技術 は

戰前

なく

なつて

る

を採ることにした。出版に際し、編者の立場から、本社印刷部員の努力に一言謝意を表したい。 ト印刷で、本書のやうに、コロタイプ印刷に劣らぬ印刷法を開發した。今後、本叢書では、この方法 特にさういへる。そこで、本社では社員一同檢討を重ね、新輸入のアルミ版を巧に利用し、 オフセツ

二之二	二之一	卷第二	一之五	一之四	一之三	一之二	一之一	卷第一	詩譜序	毛詩正義序	

五之一

毛 詩註疏

第一卷

J-7

書不許出學校關外意實的



校學刊马

一杉安房守藤原意實高進

譜序

 $\overline{\circ}$

鄉國飲史 為皆風 譜序

立之始罪受公亨族公風下人

籍序

譜序

籍字

譜序

可而

币程 明 必要 可知 東語言 清國 南 A 人服此言 公以爲 謂 東南 来邑 密 固 _ 边 謂 徙 百餘里 言さ

譜亭

自 一九一國最南 可 之公主解二麓之取大而者他以者大國故民先王行謂他聖之師其歌志公王於之言人風分得詠性之季南周 而者詩行謂之

譜序

超高

也可言

譜字

群子!	本五大艺兴	詩譜序終	j	或有而不足録詩
	本五大意落成就一是小盖日将下一看延行花	4 OB		Y
	一看題句花			

粉撰

定可召

關雅

以之小作自右 爾篇 無綱序小風之雅詩 所領是序風德云並

解雅

之地書月刊梅風

關雅

變賢此淫民易先乃此樂和 生出問之文不哲言副肅俗王是不為是於喪所賢智歌民如敬又慎人得此為無無民稱行者者諸能被第云所能同樂 禮不行而者不音作音其而民音謂樂 威窮其之中非為之等而而作移後而耳之 天而所本禮聖之心以變民而風動變與溫

開點

利



開雅

校

學

١.

之

開雕

札

A

關雅

至戒晉不用用人說隨風相也切而違其用君穴屋直也人許故之君刺事以應教微罪譎作此君反東 臣失有首名風而自者相 白人以作雖正故風向草知無 足服偃伐其之論變六之上偃其罪之義 罪知會教以功而義意而故過人丈以金 戒是罪求從諫誦云揔則結曰而君播風梦 名六後風悔不 不。之穆於來然莫太為義文上之怒於箴在詩件等者放晉上後不滿風皆使言感其樂剌上所言風足賦晉下人臣讓六名首風而作而君人以此化以而人俱君正唯義為星風不上依上君諫

開 雕

編雅

關雅

開車

關雅

關雅

網雅

開非

開雅

解雅



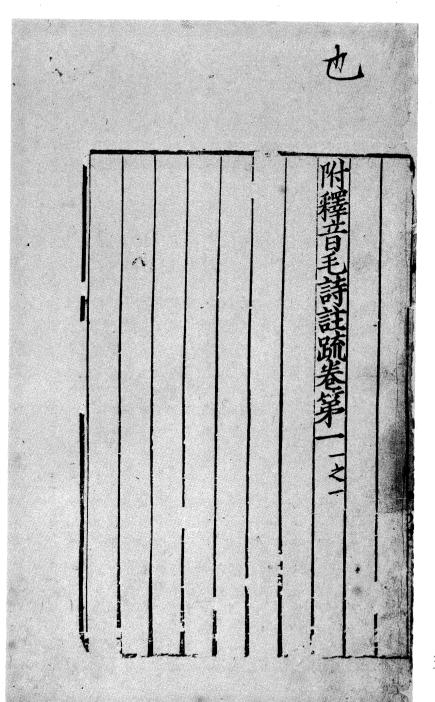
學

. 书

校

關睢

上松女房守藤原憲實等進



校摩利号



電

聚亦是性副及王禕舉之服是 衣服朝云禕賓渝衣服尊則也 可之舅土盛客翟也之韓無言

高學

墨耳

墨耳

多木

螽斯

桃子

者其樣主彼丈其尚端巨即也

0 A 句

兔里

一种



梭

學

也进

言 õ 生然 宇故閣。有寺

建黄

蕙深卅 以能。 恤餘故如取 為官亂墳閱箋宗此傳著條

汝墳

雷如太役般化儒室 時有王漢爲備王熟傷其妻法列室屬紛爲之其王肅言 好之出

0 等 爲趾前角 庙相

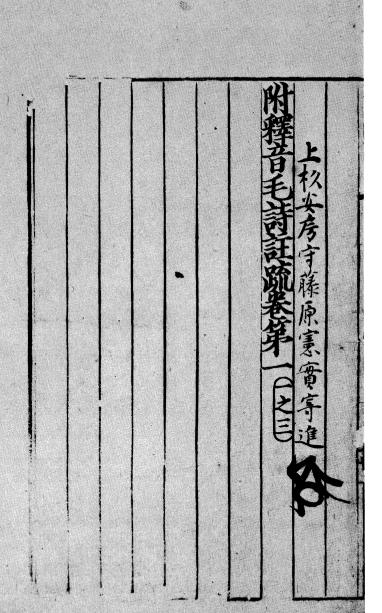
本能主 至睢 野之引

鶴果

中间仍

利

大是



校粤利号

草為

桑顭

逐頻

来蘋

栗巓

南官詩共言

行露

行軍

行露

采羊

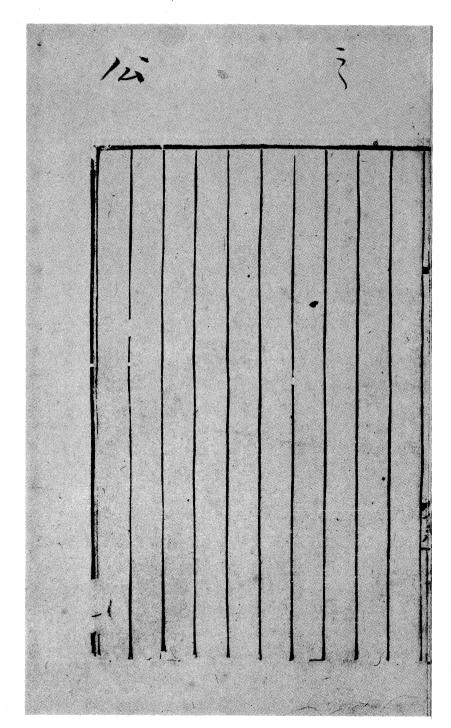
講爵首化羊能可聚是今部 集位有物以稱蹤得應大之 之則鵲各服之迹其如夫不 之則講各服之迹其如夫不云以明因功化集自乃委是制羔扩號羔獨在事

圣二年

般其電

校

學



也

E E

標有梅

你星

野月死唐

野有死庸

曹如德o可

無以不潔其言云紅将村 野迪安号 古舒之其禮禮可白堅堅統讀為中 令禮舒又吉舒也佩疆来止者而而來為林大 田白来也奔車士而 蓝 暴脱貝以禦禦騎屯也木 有繁 走令當至 庙之脱潭男白白包者此之 夏克傳傳失打禮也 志男然故于不年之以宜豪 妻字日脱節也以成 始与憧脱動水而 头劫也也行行云笺那林小中怕懂舒其但来正 野至 行以五四来中木 中禮威印 脱狗也時而 礼王室弟 佩 防正其美儀比勒也無 脱 川則繁放之 的傳統教使我運魚外非底 脱 我非白讀處者 忧忧舒日 也則舒安久禮心 龙笔一 寿 智 **建**佩建版也從而思信相 第 字云色正屯笔林 五中亦脱吠之脱以美凌 考 也舒王拐截取純中 悦 鸭舒巴疾脱礼环则箦感笺涂有以曰卤渍有技正而莲的時丢来及狗云動云也五白此而如此 以劫血意吹吹奔也负脱德至中墨此小 了日言只愿肠動其付之走饱女晚不凡此来 中由白不之成我的爱也生作 又則定言是昏、肠及。節中吉 我

有謂侯面王周 區諸伯也后姓雍 用包放設 狗名佩於 野有死庸三章三章四句一章三句 髮其走下王后一等 美美王 那也則雖王 5个约是 香则正梅 不狗日名

何彼帶矢

利

足

建

屬虞

MI

校粤利马



學學學學

攝小樓將與道丘王瀰團言流西之所之

京職編書

之見 國效管庚臼基之見而又建書蔡龙成間禄屍流書

自項國言康姝 陵之義如監糾邦過 東知成康國里義 之邶陵邶國溪又紂命里 伯王里服之地故鄘故其故此季雪東

必事結譜

討美而,馳也得思說河異 得齊得列強為歸定廣之 在街入女載作之是泉為 华如感國會不 所賦作衛俱此拍本則尼周卒 佑言同邑榆榆之山长截卧人战譜舟而并

取庸橋請

一出蘭母 美地

相舟

A

面自

緑衣

,

下色度 作割 と此刻言 服禕衣之传禄尊玉正同宜妾素以時內乃間何夫衣榆妾夫兮顕产色。安自紗禄其以家色時 國則勒故以其箋色間色陵衣服衣假下自禄裳色黄尊服褕展失至有方間黄正楷 遭至色正色大 素借者禮 云間 得為則服諸言制正間央平非方當借矣微服祭服禕侯諸明而故之餘其賤以因何緑

利

校

典

聚風

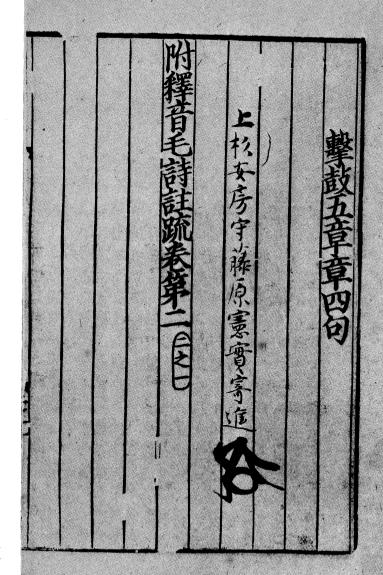
季黄

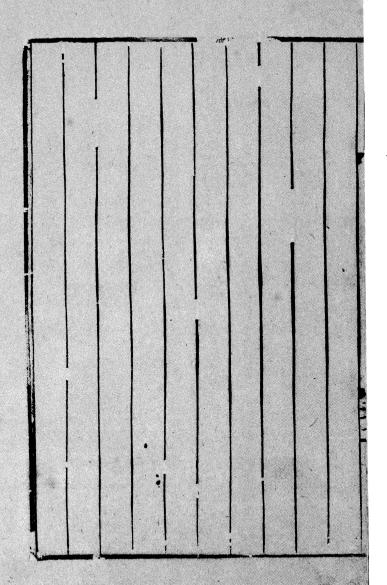
治用笺此以敘以衛所也察也杜則年鄭 庆兵兼言陳樹橋人以傳從言預鄭斯人 時也言平亦於人伐陳又者以云以人欲 。箋告陳從康敘鄭察說服除諸先伐納 鐘云陳與之蔡於春亦衞匮君侯君衞之 行使然言告使州公故正言討電十 也漕衆擊告陳大吁陳二謂以欲於十 箋衛皆鼓陳與夫為侯國以賦求諸年 云邑踊聲之宋將首察代兵與此疾即隱鄭 擊哉

廷 学

也

冉





校粤利号



凱風

雅神

義有苦葉

禮此乎貧儉隨與有張衣石為水際上水首類孤之勉○儉則宣禮苦文並渡之深安也爲薄深葉始葉鄭尚禮期有葉反苦水求淺可揭屬交謂苦行苦以不殺之禁不爲例也如喻以褰謂反入不

朝有苦葉

即納苦世春以則《以時上傳雅由衣也》

勢有苦葉

雄以有杜前傳夫儒悟爲行音喻為

大朝切車軸 頭を 香花 車 朝 ちゃ

軌與云声轍於義色發也 載謂范周凡地厲曰者其言向済 五八百苦華

言版牡雄猶由句義而[議末端途上言 夫是也左矩其責不字] 注也也九文軾 人也山掩鳴道夫復異云然考軌亦前

五氏菲羹珠云也同芜荔花江風雨孫我长統思其 者连为当口菲秋即闰人坊二以無炎乎死何异夫 一小与杨菲拉中药西或凯菜有节口〇何者喜杨 物雅慧个似菜又也謂謂准至朋故谷傳必夫其一 也二來謂當朝天須之之去之友強之東海帰棄不 其处異之蓋理菲也荒芥葑類故陽言園色之双宜 秋分积芴色口芴苑青方菱。 直和最至期法具有 似此部小業菲也普通言青亚云乃上嗣海要為證 苗務注雅專草新也概念也義润谷生生之道室於 而即似謂而生改養之豊陳日澤風也の有德家也 那菲 是之 長下 日菁都莞 宋秋行至 谷正字之 C言 當也別息有隱立也謂燕之草思比風義我者去米 成芴中菜毛地瓜药之青间云爱有者日之無無药 云也如今三似也意大也謂须成夫生東君相以菲 蓄真隆河月燕岛也并酿之药而稀丧風子建其之 的菜磯內坐青炎芜豊桂黄 苍已放之謂何即妻者 也也之人富華日也反謂陸孫。引風之故可廣無 第五言謂為紫蓋芥葑之今英傳作院谷以及包以 会瓜又全布赤類也字豐 云日药生肠風類小之下 比也是宿滑色也大雅多黄顶顶物不散色君康體 =宿一菜美可收物 異喜 燕一菲小和天妻子并根 采菜物尔可食 中一音調 著名芴雅即友而傻蠢蓋

不合風

建立

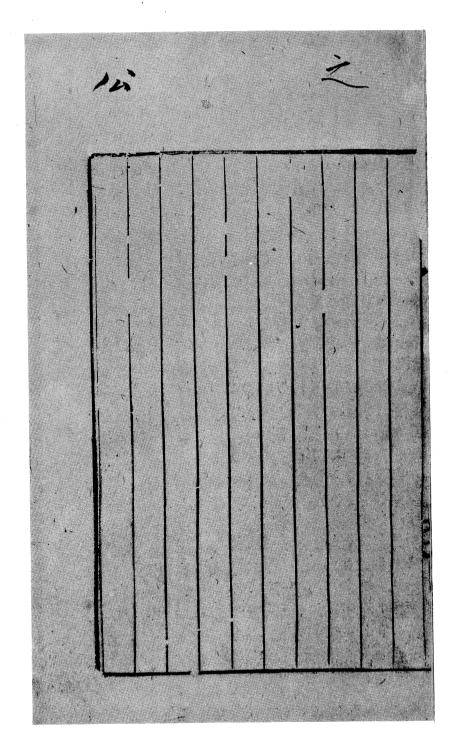
謂云然伯者周責使言稱召叔族牧康伯者伯天使知言此之衞故康疾太者爲是叔也以之 他方相之牧未收爵頃公康也矣日之伯不臣地 他方相之牧未收爵頃公康也矣日之伯不臣地 之伯爲事地有下仍疾不叔顧今五制之使矣此 類領長前故謂二族因怕至命而疾使意亦言故 王諸耳代知之伯也康以身云本九伯故是責衛 制侯王必爲州者此叔康伯乃之伯佐云責衛責 雖者制不二伯以云本叔不同康是牧衛衛伯衛

莲

城立

校

學



也

簡多

日時此樂宗之山也以而方故羽言亦武以王得師廟非川大周舞之云籥之以王 之時干舞山川故在此祭而祀解 國矣去朝方 侯又用山内外謂四兵以羽干以有子禮籥山論正唯不之川則乃四方舞言並戚武突舞記别川擇義有同而對祭是望者的四有與王恕

大又如動海也近而赭翟御叔似組於衆衛成已德羽衆 有執執言師可以 之宜堪組文學學能字以義賜清產但為知章執及治又御取一之

簡分

姉

原水

未與以遂郊在故祖其乃祭詩取在 聞而為行則郊皆於意後道云云冬 壺已在含此而先國韓出路出犯與 近而郊於姉傳言外奕宿之祖較較 同目

·水泉肥(槽也是) 0 福 **馬是曹 原 高 高**

超

北風

静女

自防深海域 クダ町で 之而也首如能 日不俟而是服 止なり

605 1945

静

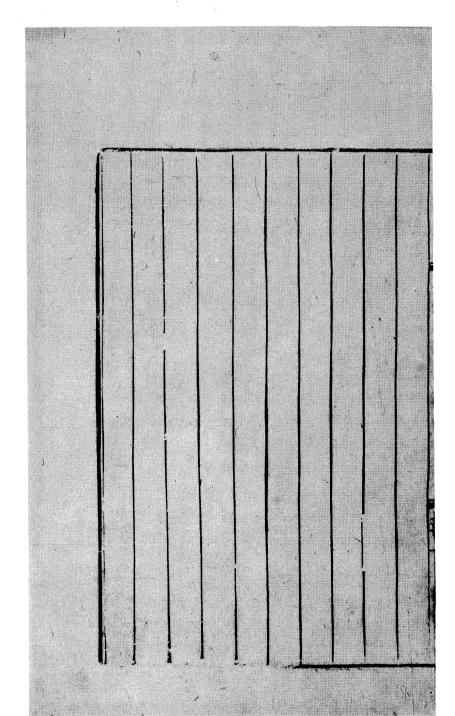
和

芝

校

些

三子東舟



校摩利忌

Th.

新州

已不矮更拂鳴內從深則鄭故云君云今

瘤有类

告子首老

服侄夫各被事君老

酰

君子僧老

冷静日星象。

苦子偕老

雪」偕老

病目日因之云云誤繼衣翟連塵黑 故為揚名字禮一也袢長青而故家 上清故爲官部命又也衣禕為取衣

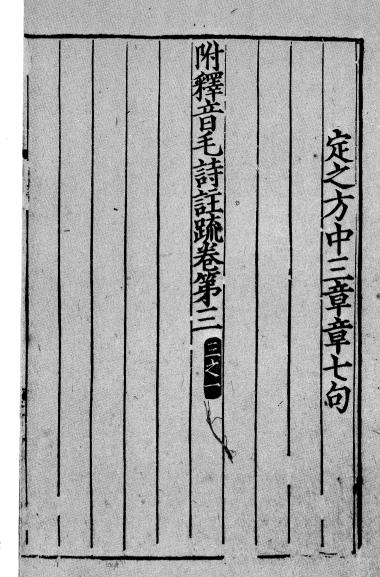
一定之方中

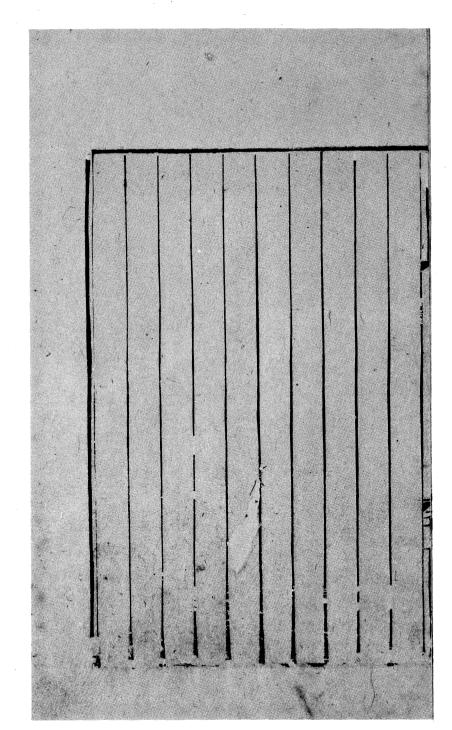
定之中

七由所事同

正成之才中

定之方中





雨氣應自時之則似

一個星

干旄

て又の郊野 以以曰以此有祀首旗旃於在郊建一者言亦者 素織以亭亦徒四皆之大郊浚外建也鄉干有畫 終組二言云綾郊注帛夫為之謂者旣射莲旄異 組織章多干是乘旄皆建都郊之設設記傳二物 組織言好莲太玉者用物邑明牧旒旒注曰章妖 之於組善是常略以解司相所牧終終云析互則

利



校

學

載馳

便更

淇奥

其果

著樂

佼

領人

以**今**且云蜻 巧口倩方有蜻ュ 輔好此文舍義顙靖曰云故辨必

碩人

不近之鄭言爲之以說 破郊服以莊早節朱舎 字 而爲姜退如飾於 木工近字

环

已天廉識以云為取故悠 宜通

· 克近故以兼期謀謀能音丘**以為綠**以夏戒 「反附因秋二言」又男有同孫孟勒是男有以 近後為事且丁就德o炎郭丘之関期也者云女直箋日璞冊 の為 號子者所心民所會之钱非異射器成賣鴉盂齋

珉

쑛

完備

无蘭

可 0

竹分

和

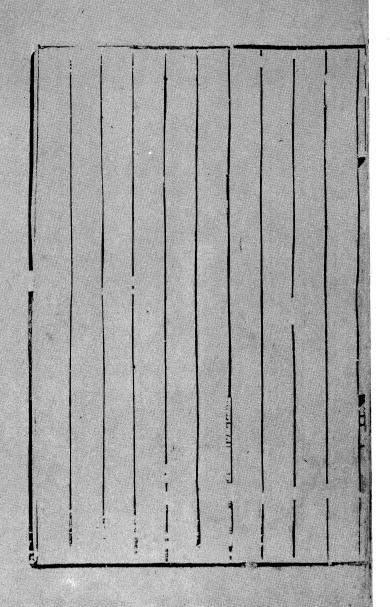
多

校

學

市

用



校摩利是

主城譜

王城譜

fai

天郭璞曰見猶愍山

が掩や

物之水

兔爱

反均子章序傷自卒魚之將是是麥於王隱賦 本等 方言一君此失敗之怕軍侯王又及日年息 你有也與句子言傷祝陳為慕背失取平無左使

欠車

丘中有麻思賢也在王 町 人思え 大車三章章四句 不明賢 里;日作章應徒見

· 占称治人中思来 他以氏正特備牧股放麻前 (子) 義能; 甚種逐者逐中 高為于日、处也:於 看字其智侗令 章言彼 鱼残相被独筑。 泊 塘虾番人 自己人而見氏於省

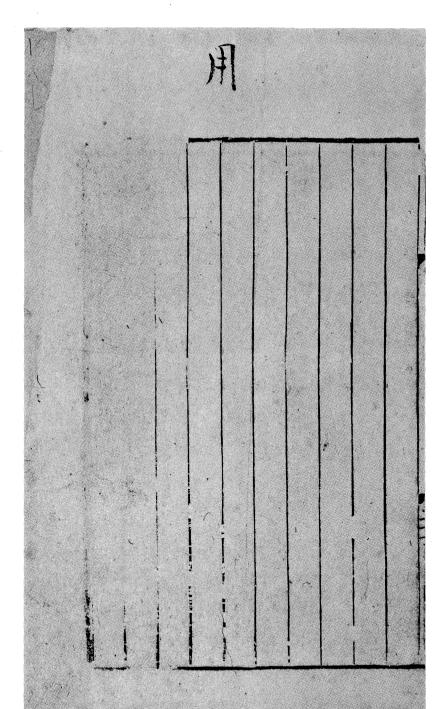
和

芝

検

學

公



書

極譜

學

風水

天學由

利

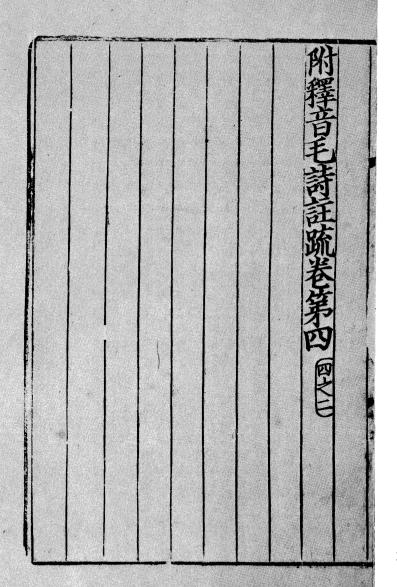
艺

校

學

備人

也



校粤利廷

安白難鳴

解事豆禮而文食葱禮之義長古侍其宜也食食此則牒左鳧曰釋賢有為四之後,其宜也食食此則以有與其一人為一种。 在與性已此得宜處看寫是釋賢有 有實牢自以用做末右為我言士肴之客之不相鳧公酒載加釋文親有

燕與有同之來異送亦詩

有女同車

之文女》等時有殺志請怕奔 徳淫姜妻辭以音適也忽諸君 命請我問

有故同庫

鳴車華林都蒸陸日授迎於步其同忽也

山有铁蘇

山有扶蘇

游山龍謂義澤名其松者乃識 龍上而枝o中故大共反往善 喻之巴葉箋高云者文任見惡 聽木不放遊丈龍歸媽用校之

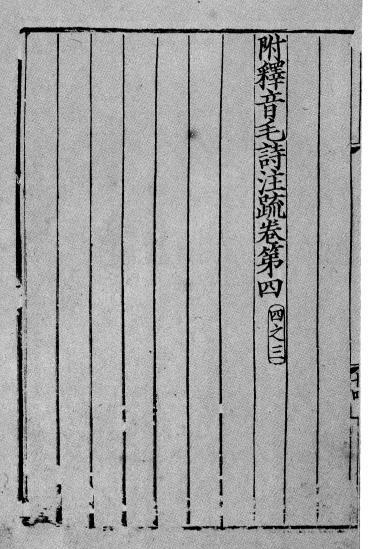
養さ

經叔字倡稿蘀具和君言以人稱相臣倡伯云而謂落在者意倡女謂○服和

安安安

寒水岩水

\$ 100 mg		地稱請子 士事之
	秦	對國 日日 晉某
	多章	走寨 將品
	章五	時六事年
	有	幸
		是由命與王之士同
		連門とは明
		同五



围

গ

迎衣住也纁直禪禪而藻其故 已盛也紂衲言縠縠婦云丈别

東門之暉

子於

心道

四等〇多故以

出其東門

穗夕即門之臺 東 市 我 思 定 出 幹 非 注 苦 謂 門 謂 釋 門 不 之 以 此 其 殷 彼 與 菜 闉 外 當 宫 此 能 妻 非 女 曲 其

本

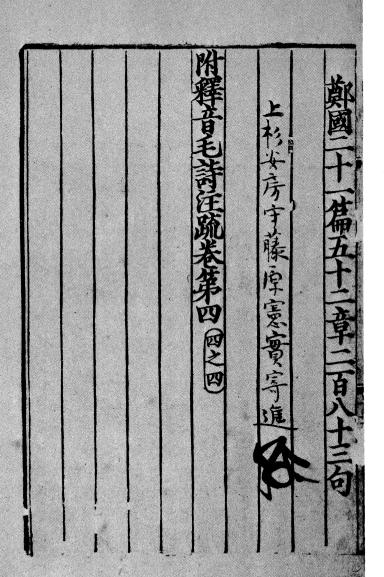
芝

公的

校

學





校粤利己

五六九

月 公

齊譜

難鳴

乎作孫方府甫三字爲公子君考王詩真去是東 如難毓中宝田篇云襄說卒歷故時作矣國妻王 以鳴以皆刺盧皆刺公立子年得立而且周闇之

華鴻

雅鴻

雞鴨

者

審一

常

東方之日

東方未明

東方未明

東方未明

昭和四十八年十月 發 製 賣 作 發行 毛 詩 註 發 解 印 疏 汲 古 書 院東京都千代田區飯田橋二一五一四 行 題 刷 第一 振替東京一五八〇三五電話(二六五)九七六四 圖足 長 卷 汲古書院印刷所 足利學校遺蹟圖書館內栃 木 縣 足 利市昌平町 館學 後校 援遺 (全四卷) 會蹟 也